

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 18章 1-8節＞

1 この個所は、「神の国（の到来）」と関係している。

イエス様はなぜここで、「**気を落とさずに絶えず祈らなければならない**」(1)ことを教えられたのでしょうか？ 実は、今日の個所の前後では「神の国」について語られています(17:20, 18:16, 18:24)。今日の個所でも「**人の子が来るとき**」(8)と言われ、次の個所では「**だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる**」(14)と神の国が到来した時のことが言われています。よって、神の国が到来するまでには色んなことが起こるが、それに気を落とさずに絶えず祈りなさいと教えられたのです。それでイエス様は、「**まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあるか。言っておくが、神は速やかに裁いてくださる**」(8)と言われたのですが、それは「**人の子が来るとき**」(8)、すなわち神の国の到来の時であり、それまで、「**気を落とさずに絶えず祈らなければならない**」(1)ことを教えられたのです。

2. 今、神の支配の中を生きるための方法が示されている！

「神様はなぜ今「速やかに」悪人を処罰せず（「裁く」3,5,7,8の意味）、信仰者を苦しみの中に置き続け、神の国の到来まで待てと言われるのだろうか？」と思うかもしれません。それに対してここでは二つのことを教えています。一つは、「**神の国はすでに到来し始めている**」ということ（「**神の国はあなた方の間にあるのだ**」(17:21)）。神様をしっかりと見つめて生き出す時に、移り変わり行く人間の支配より神の支配（国：バシレイア）の方が不動で確かなことが分かって来ますし、その支配を信じて生きる方が平安であることも分かって来るのです。もう一つは、「**気を落とさずに絶えず祈る**」(1)ということ。それは、いつもいつも祈っていなければならないということではありません。それは形のことを考えているのです。祈りで重要なことは何か？ それは祈る対象、神様を覚える時を持っているということです。ですから、大事なことは形としての祈りを為すということではなく、神様をいつも覚えて生きるということです。どんな時にも、何をなす時にも、神様のことを思い、「神様、イエス様ならどう言われるかな、どうされるかな」といつも考えて生きるようになったら、「神の国（支配）」の中にあることを思いながら生きられるようになるのです。